

「一番星」・「にじのきらめき」栽培講習会を開催しました

7月13日、坂東普及センター主催、JA茨城むつみ普通作生産部会連合の後援により、「一番星」・「にじのきらめき」栽培講習会を開催し、68名（うち生産者35名）が参加しました。また、今回の栽培講習会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、野外における現地検討のみの形式で開催しました。

県西地域では、イネ縞葉枯病による収量の低下が懸念されており、収量を安定化させるためには、「一番星」や「にじのきらめき」等のイネ縞葉枯病抵抗性品種の作付面積を拡大する必要があります。

はじめに、県育成水稻品種「一番星」は、契約出荷が多く、実需者からは安定供給が求められており、また、生産現場からは多収栽培法の普及が求められていることから、「一番星」の多収栽培法について現地検討を行いました。併せて、斑点米カメムシ類の防除暦をもとに、適期防除を推進しました。さらに、全農いばらきからは、米の需給状況について情報提供がありました。

次に、近年の登熟期間の高温の影響により、主要品種で玄米品質の低下が懸念されていることから、高温耐性を有する「にじのきらめき」の特性と施肥設計について現地検討を行いました。また、中日本農業研究センター及び県関係機関から、「にじのきらめき」の栽培事例、出穂期予測等について情報提供がありました。講習会後のアンケートでは、65%の生産者が「にじのきらめき」の栽培に興味があると回答し、生産者の関心が高いことが分かりました。

普及センターでは、引き続き管内の水稻生産の高品質安定化に向けた取組を支援していきます。



令和3年7月28日 坂東地域農業改良普及センター 栗原 杏（成長産業）